

品川歴史館特別展図録『江戸の名僧 澤庵宗彭』正誤表
以下の誤字・脱字がありました。訂正してお詫び致します。

頁	該当箇所	誤	正
6	図版No. 8 釈文	禪林未必 <u>取</u> 紅白	禪林未必 <u>且</u> 紅白
8	図版No. 11 釈文	与●（耳に思）空烟 <u>己</u> 未来	与●（耳に思）空烟 <u>已</u> 未来
8	図版No. 12 釈文	怒面、 <u>露</u> 然和気、 慈悲 <u>俊</u> 乎霜	怒面、 <u>露</u> 然和気、 慈悲 <u>峻</u> 乎霜
8	図版No. 12 釈文	寛永廿一甲申小春日	寛永廿一甲申 小春日 澤庵叟（印）「宗彭」（印）「澤庵」
12	図版No. 21	宗 <u>鐘</u> 寺内	宗 <u>鏡</u> 寺内
16	図版No. 34	済 <u>宇</u> 大徳寺派の寺であり、この <u>禪</u> 庭は	済 <u>宗</u> 大徳寺派の寺であり、この <u>禪</u> 庭は
17	6行目	この後、大徳寺塔頭大仙院に入る <u>か</u> 、	この後、大徳寺塔頭大仙院に入る <u>が</u> 、
19	5行目	利休や遠州好みの <u>藍</u> 室が	利休や遠州好みの <u>茶</u> 室が
19	大徳寺略図	聚光院の下「 <u>鐘</u> 楼」	「鐘楼」削除
20	図版No. 48	大徳・妙心諸法度抗弁書 <u>稿</u> 本	大徳・妙心諸法度抗弁書 <u>草</u> 案
27	6行目	不破不 <u>簋</u> 不奢	不破不 <u>食</u> 不奢
30	8行目	寛永十三年（一六 <u>二</u> 六）	寛永十三年（一六 <u>三</u> 六）
33	10行目	太刀を <u>愛</u> 流して、	太刀を <u>受</u> 流して、
33	13行目	欠け <u>串</u> 間敷候。	欠け <u>串</u> 間敷候。
33	14行目	太刀をば <u>愛</u> 流すべけれども、	太刀をば <u>受</u> 流すべけれども、
33	23行目	寛永十二年（一六 <u>四</u> 三）	寛永十二年（一六 <u>三</u> 五）
34	図版No. 121 釈文	小者持不 <u>用</u> 、同宿持不 <u>用</u> 、弟子持不 <u>用</u> 、小僧一人持不 <u>用</u> 、小生一人持不 <u>用</u> 、天地之間、身一にて候。何として官家徘徊成可申候や。思召やられ候	小者持不 <u>申</u> 、同宿持不 <u>申</u> 、弟子持不 <u>申</u> 、小僧一人持不 <u>申</u> 、小生一人持不 <u>申</u> 、天地之間、身一にて候。何として官家徘徊成可申候や。思召やられ候
34	図版No. 121 釈文	時めくも、たゝ一時のむ <u>ろ</u> さ	時めくも、たゝ一時のむ <u>ら</u> さ
34	図版No. 121 釈文	の <u>墓</u> に枕かはすを	の <u>夢</u> に枕かはすを
35	11行目	<u>宗祖</u> の徹翁義亨	<u>大徳寺第一世</u> 徹翁義亨
42	図版No. 149	徳川家朱印状写	徳川家 <u>綱</u> 朱印状写
43	上段No. 2	沢庵、玉室、江月は江戸に召 <u>換</u> された	沢庵、玉室、江月は江戸に召 <u>喚</u> された
43	下段16行目	別離今日 <u>己</u> 忘機	別離今日 <u>已</u> 忘機
43	下段19行目	金風吹 <u>越</u> 白川波	金風吹 <u>起</u> 白川波
43	下段30行目	ミたるなと人をいさむも折 <u>々</u> に	ミたるなと人をいさむも折 <u>から</u> に
44	下段4行目	<u>仰</u> 錠候板倉周防守折節参合候故此旨被 <u>御</u> 渡候也	<u>御</u> 錠候板倉周防守折節参合候故此旨被 <u>仰</u> 渡候也
46	上段No. 21	宗鏡寺本堂廊下の上にある同 <u>鐘</u> の説明文として次のように記している。 「和尚投渕軒に在りし一夜 夢を感じ人をして掘らしむるに はたして一 <u>鳥</u> 鐘	宗鏡寺本堂廊下の上にある同 <u>鐘</u> の説明文として次のように記している。 「和尚投渕軒に在りし一夜 夢を感じ人をして掘らしむるに はたして一 <u>鳥</u> 鐘
48	下段No. 54	急度申入候、澤庵儀其方江御預候、	<u>以上</u> 急度申入候、澤庵儀其方江御預候、
48	下段No. 55	當座ゝに皆々人に遣候頭巾、わたほうし、おひたひなど	當座ゝに皆々人に遣候 <u>、</u> 頭巾、わたほうし、おひ <u>、</u> たひなど
48	下段No. 55	はしめと <u>て</u> て、親類共之内、一人も音信とて、人なとくれ候は <u>、</u>	はしめと <u>して</u> て、親類共之内、一人も音信とて、人なとくれ候は <u>と</u>
51	下段No. 115	烏丸光広像（部分） 一絲賛	烏丸光広像（部分） 一絲賛 <u>*</u>
51	下段No. 121	柳生宗矩宛書状 沢庵宗彭筆 一幅	柳生宗矩宛書状 沢庵宗彭筆 一 <u>巻</u>
52	上段No. 127	品川御殿での茶会で、	<u>この手紙の後半に、</u> 品川御殿での茶会で、

52	上段No. 127	雲州無事御渡被成、今程者御國ニ可有御座と存候。	雲州無事ニ御渡被成、今程者御國ニ可有御座と存候。
52	上段No. 127	大樹御氣色今程はすきと御本復、去々年 <u>の</u> 御顔色ニ被爲成、	大樹御氣色今程はすきと御本復、去々年 <u>之</u> 御顔色ニ被爲成、
52	上段No. 127	候ハ、爲御手前には延申儀珍重ニ存候。	候ハ、爲御手前には延申儀珍重ニ存候。
52	上段No. 127	入候。然共従前角色々様子共御座候間、いか、可有御座哉	入候。然共従前角色々様子共御座候間、いか、可有御座哉
52	上段No. 128	沢庵宗彭書状 一幅	沢庵宗彭書状 一幅*
52	下段No. 128	道安引被申候、盃ノウつしにて候由候、	道安引被申候盃ノウつしにて候由候、
52	下段No. 128	詮と笑申事候、乍、去炭をも	詮と笑申事候、乍去炭をも
52	下段No. 128	にて御相伴珍とて皆々御わたい	にて御相伴珍とて皆々御わらい
53	上段No. 131	沢庵宗彭書状 一幅	沢庵宗彭書状 一幅*
53	下段No. 132	堀田正盛書状 沢庵宗彭宛 一通	堀田正盛書状 沢庵宗彭宛 一通*
53	下段No. 132	二月六日 堀田加賀守 <u>正盛（花押）</u> 沢庵和尚 正盛	二月六日 <u>正盛（花押）</u> 堀田加賀守 沢庵和尚 正盛
54	上段No. 133	重而可有用捨候、●（与に欠）	重而可有用捨候●（与に欠）
54	下段No. 134	一、本山在 <u>宇</u> 之諸長老遷化時。必有一山之施齋。我退本寺捨身	一、本山在 <u>寺</u> 之諸長老遷化時。必有一山之施齋。我退本寺捨身
54	下段No. 134	一、我息 <u>已</u> 絶。則於夜早可送于野外。	一、我息 <u>已</u> 絶。則於夜早可送于野外。
55	上段No. 136	東海寺惣図 嘉永五年 一幅	東海寺惣図 嘉永五年 一幅*
55	上段No. 149	徳川家朱印状写 寛文五年 四代将軍徳川家綱	徳川家 <u>綱</u> 朱印状写 寛文五年 四代将軍徳川家綱